

目次	ゼオンのCSR	組織統治	環境	労働慣行	GRI スタンダード対照表
公正な事業慣行	消費者課題	人権	コミュニティ	データ集	国連グローバルコンパクト対照表

コミュニティ

基本的な考え方と取り組み	50
CSR コアプロジェクト	51

基本的な考え方と取り組み

安定した事業活動を運営し、よりよい製品・サービスを生み出していくためには、地域コミュニティの発展に貢献し、強い信頼関係を構築することが極めて重要です。

ゼオンの社会貢献の考え方

社会貢献とは本来、本業を通じて行うことが基本と考えていますが、企業が社会の一員である以上、山積する社会的課題と企業活動は無関係ではありません。ゼオンでは、より広い視野を持って社会とかわるために、本業以外の社会貢献活動にも取り組んでいます。

2012年には、グループ全社に公募した中から選考し「CSR コアプロジェクト」として開始しました。CSR コアプロジェクトは、本業以外の社会貢献を象徴する活動として、社員が社会に目を向ける機会にもなっています。

東日本大震災復興支援に関する各種活動と、各事業所・グループ会社で共有する共通プロジェクトを企画するとともに、各事業所・グループ会社が従来から独自に行っている社会貢献活動を加えて3つのカテゴリーでとらえ、相乗効果も意識しながら展開しています。

古河奨学金

古河記念基金は、経済的理由によって修学困難な学生（日本人、外国人）に対して奨学金を給付する、56年の歴史を持った公益財団法人で、当社も活動支援のための取り組みを継続的行っています。

これまでに延べ3,290名の方が受給しています。

目次	ゼオンのCSR	組織統治	環境	労働慣行	GRI スタンダード対照表
公正な事業慣行	消費者課題	人権	コミュニティ	データ集	国連グローバルコンパクト対照表

CSR コアプロジェクト

本業以外の社会貢献を象徴する活動として取り組んでいます。

CSR コアプロジェクトの取り組み状況

プロジェクト	具体的な取り組み状況	2020 年度目標
東日本大震災復興支援		
復興支援ボランティアツアーへの参加	2012 年 10 月より開始 2020 年 3 月までに 66 回実施 (延べ 538 名参加) 災害復旧支援 (南三陸、陸前高田)、農業支援 (いわき)、漁業支援 (気仙沼) 等	取り組みの継続 (目標頻度は年 4 回) > 2020 年度はコロナ禍の影響で中止
「食べて応援しよう」キャンペーン	被災地産食材の積極的利用による産業復興 応援 社員食堂、Zぶらざ (社員用ラウンジ) において東北産メニューを展開中	取り組みの継続
「いのちを守る森の防潮堤」*活動への参加	「大槌町『平成の杜』植樹会」(主催: 横浜ゴム/岩手県大槌町) に 2013 年度より協賛・参加 > 2020 年度はコロナ禍の影響で中止	2015 年度にて植樹会は終了。植樹後のメンテナンス等を通じて大槌町とのつながりを継続
共通プロジェクト		
化学教室	夏休みイベント、地域住民の事業所見学での実験教室開催 本社: 夏休み子ども化学実験ショー (2013 年度より 2017 年度まで参加) 徳山工場: 親子向け産業観光ツアーでの実験教室 ゼオンケミカルズ米沢: 「青少年のための科学の祭典 in 山形」での実験教室 高岡工場、川崎工場: 工場見学会での実験教室、地元小学校への出前授業 総合開発センター: 川崎市の夏休み自由研究講座 > 2020 年度はコロナ禍の影響で多くが中止	化学実験教室の展開 (事業所での実施を増やす) 実験内容の拡充 (実験パッケージの新規作成)
エコキャップ運動 (PET ボトルキャップ回収)	2012 年度よりグループ全社でカウント開始	取り組みの継続
事務用品のグリーン購入	環境負荷の少ない事務用品を購入 (ノート、製本テープ、持ち出しフォルダー等、グリーン購入法該当の 44 品目中、22 品目 (50%) を切り替え)	取り組みの継続
独自プロジェクト		
各推進委員会にて課題設定	地域社会とのかかわり 地域行事への参加: 各種イベントの主催・協賛 清掃活動 教育支援: インターンシップ受け入れ、学校への講師派遣等	取り組みの継続

* いのちを守る森の防潮堤
東日本大震災に伴う津波によって被害を受けた沿岸部に、被災瓦礫と土を混ぜて高台をつくり、そこに土地本来のさまざまな樹木を植えて多層構造の森を形成して、津波への防潮機能を高める活動

目次	ゼオンのCSR	組織統治	環境	労働慣行	GR1 スタンダード対照表
公正な事業慣行	消費者課題	人権	コミュニティ	データ集	国連グローバルコンパクト対照表

取り組み事例

CSR コアプロジェクトの取り組み事例を紹介します。
その他地域社会への取り組みについてはサイトレポートでも多数、報告しています。

東日本大震災復興支援ボランティア

一般の復興支援ボランティアツアーへの参加者を公募し、継続的に社員を派遣しています。費用の全額を会社負担として、社員参加を積極的に後押ししています。

2012年10月より始まった取り組みですが、2019年度は65名が参加しました。岩手県陸前高田市での復旧作業支援・遺留品捜索、宮城県気仙沼市での漁業支援、福島県いわき市での農業支援などを行いました。

「支援」から「応援」、「応援」から「交流」へ。震災の記憶風化が懸念される今だからこそ、今後も継続して取り組みます。
(2020年度はコロナ禍の影響で中止)

被災地での植樹会協賛

岩手県大槌町と横浜ゴム株式会社が主催する「大槌町『平成の杜』植樹会」は「いのちを守る森の防潮堤」構想のモデルケースとして、2012年から開催されました。この植樹会に、ゼオンは2013年から協賛しました。2015年の第4回目にて植樹会は終了しましたが、植樹会場のメンテナンスと課外授業を通じた地元小中学生への植樹教育に継続して参加しています。
(2020年度はコロナ禍の影響で中止)

化学教室

「未来のノーベル化学賞受賞者を育成しよう」を合言葉に、子どもたちに化学の面白さを伝えるための化学実験教室を各地で開いています。



ゼオンケミカルズ米沢ではコロナ禍ということもあり、例年参加していた子供向け化学実験教室は中止となってしまいました。しかし、市内高校での職業体験会に参加し、フラスコやビーカーをプラントに見立て、ハーブを使った蒸留実験を通じて、化学プラントでの仕事を疑似体験してもらいました。



トウベ茨城工場では、工場見学会中止に伴い、自宅で楽しめる実験キットを提供しました。

目次	ゼオンのCSR	組織統治	環境	労働慣行	GR1 スタンダード対照表
公正な事業慣行	消費者課題	人権	コミュニティ	データ集	国連グローバルコンパクト対照表

教育支援

各事業所・グループ会社では、高校・高専・大学からのインターンシップや、学校からの工場見学の積極的な受け入れ、学校への臨時講師派遣等、教育機関への支援を行っています。



水島工場 工場見学会



オプテスでは地元の高校生のインターンシップを受け入れています。

地域対話

工場では、レスポンシブル・ケア協議会の地域対話への参加、立地自治体や地域住民の方々を招いた見学会などを通じて、環境改善や保安防災などの情報を発信しています。



川崎工場でのレスポンシブル・ケア地域対話会
レスポンシブル・ケア委員会の川崎地区会員企業8社と近隣自治会役員を招いて開催



タイ Zeon Chemicals (Thailand) Co., Ltd. CSR-DIW (タイ工業省推進のCSRプロジェクト) の継続的な推進として、近隣住民への参画と従業員の健康維持を推進

地域イベント開催・参加

各事業所・グループ会社では、夏祭りをはじめとするさまざまなイベントを開催したり、各種の地域行事に積極的に参加したりするなど、地域社会との結びつきを大切にしています。

地域清掃活動

「役に立ちたい、そして喜んでいただける活動を」との気持ちを込めて、各事業所・グループ会社では、事業所周辺にとどまらず、地域の清掃活動に取り組んでいます。

目次	ゼオンのCSR	組織統治	環境	労働慣行	GRI スタンダード対照表
公正な事業慣行	消費者課題	人権	コミュニティ	データ集	国連グローバルコンパクト対照表

地域共生

各地域において、さまざまな共生活動を行っています。



米国 Zeon Chemicals L.P. では、ボランティア活動や寄付活動を長年継続しています。



タイの Zeon Advanced Polymix Co., Ltd.、Zeon Chemicals (Thailand) Co., Ltd. では、清掃ボランティアや寄付活動を長年継続しています。
学校・近隣寺院・病院・教育施設などさまざまな団体に寄付をしています。